

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370105250		
法人名	株式会社 ファミリス		
事業所名	グループホーム パラディーン神宮寺		
所在地	岡山県岡山市北区北方1-14-3		
自己評価作成日	令和 3 年 1 月 28 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JiyosyoCd=3370105250-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	令和 3 年 2 月 24 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気でも過ごせるような環境にしている。
一人一人のペースで生活して頂いている。
コロナ禍において入居者様とご家族様の距離が遠くならないようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

各ユニット管理者の成長が窺われ、より地域の関わりをこのコロナ禍であっても何とか縁が増す様にと、思考を凝らしていた。その一つ目は、手作りの神社を作り、手を合わす事で心が豊かになる場を作っていた。また、二つ目としてフランス人のピザの移動販売車も寄る様になり、心温まる縁も築けた。和魂洋才の交流から、馴染みの環境が生まれた。利用者と家族のオンライン化を導入した事で家族との絆が深まり、職員の意向の把握に役立ち、家庭的な雰囲気が過ごせる工夫に至った。利用者も「ここで暮らす事で大切にされている」という気持ちから湧いて落ち着きを感じ、笑顔が満ち溢れていた。社長も何でも手伝うと言う気持ちから、日々言葉掛けや支援が、職員に充実感を与えていた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	業務内での疑問点・改善点が必要な時には申し送り時に話し合い、解決できない時には職員会議で話し合い、ケアの統一を図っている。	法人と事業所の理念は全員が覚えられる様に、2階事務所に掲示し、月1回の職員会議でも確認している。理念と照らし合わせた申し送りをすることで、日々の実践に活かせる様にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年ならば町内掃除・町内イベントに積極的に参加し、幼稚園へのイベントにも参加している。中学生の職場体験も毎年受け入れているが今年度については町内清掃に参加している程度	幼稚園児や地域の方が利用者と職員と繋がれる様に、ゴミ出しをしたり、居室やリビングの窓を開けて手を振ったりして、顔の見える関係が続くようにしている。毎月、フランス人がビザの移動販売車で来られ、舌鼓を打てる関りが加わった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご利用者と町内行事に参加したり、運営推進会議に町内会長・民生委員の方に参加して頂き、認知症の理解・支援の仕方を理解して頂ける機会を作っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	他グループホームの方にも参加してもらっている。	書面やメールで隔月で開催し、包括・町内会長・民生委員・家族・他事業所の方が参加している。コロナの最新情報や元気を伝え合う言葉を載せている。法人でタブレットを購入し、家族と利用者がオンラインで面会出来る様にと提案があった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市・県の研修に参加している。運営推進会議にも参加頂いており、意見交換や近況報告を行い、協力関係に繋げている。	窓口は、総務と管理者が内容により臨機応変に対応している。運営推進会議の書面を市町村に送付する中で、コロナ予防の最新情報を、いち早く送ってもらい、情報の共有のキャッチボールが深まっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設立し、委員会を中心として勉強会を行い、拘束のないケアを行っている。	身体拘束はしていない。隔月に身体拘束廃止委員会を開催している。最近では、スピーチロックを主に取り組み、日々のケアで「これはスピーチロックになってるかな？」と自身を省みたり、他のスタッフの関わりを見て言葉を掛け合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議やグループ全体研修などで勉強している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	2年ほど前成年後見制度を利用する機会があり、勉強になった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・締結・解約。また改定時にご家族と面会し、十分に話し合いを行い理解・納得してもらえよう努力している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に参加して頂いたり、個別に意見・要望を聞いている。またご家族からの意見・要望は職員で共有している。	家族から、お手伝いをもっとさせて欲しいとの要望があったので、お盆拭きが自らの役割として意識付けとなった。また、他の利用者にも意欲が沸き、歩行訓練も自ら取り決めて、役割として日課にしている。洗濯物を干したり雑巾を作ったりしていて、意欲が波及している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別に面談を行ったり、会議などで話し合い、職員の提案などを受け入れている。	年1回、総務との個人面談を継続していて、処遇や勤務・運営などに関する話し合いをしている。また、管理者は日頃の会話や職員会議の中で意見や提案を聞き、職員のちょっとした変化を感じた時は、管理者から積極的に職員へ話しかけるよう心掛けています。	人的連携を目指す為にも、成果を繋げるためにも、問題意識を伝える試みや、聞き取る力を増す様にしては如何でしょうか？
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別に面談したり、総務に不安や不満を言いに行ける環境を作り、楽しく働けるよう努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部・外部研修の内容や感想を会議で発表を行っている。外部研修の声掛けなども行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームとの交流。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を何度か行い、ご家族・ご本人から今までの生活歴を聞き、今までの生活に近づけるよう努めている。接する時間も大切にし、安心して生活できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前面談でご本人・ご家族の意見や要望を聞き入れ、入居された次のご家族へホームでの様子を電話で報告している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談・話し合いでご本人・ご家族が求めているものを見極め要望に近づける支援を提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人ができることはして頂き、洗濯物干・たみ・トレ拭きなど、職員と行い共同生活を楽しんで頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の役割をなくす事なくご家族・職員が協力し、話し合いを行い関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	リモート面会を始め利用していただいたり手紙のやりとりをされている。	コロナ禍で、馴染みの人や場所との関係が薄くならないように、リモート面会を週2回、手紙のやりとりを月1回行うことで、身近な関係が継続できるようにしている。四季の彩が好きな方は、日課としてテラスの水やりをすることで、新たな馴染みの場を形成している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係を理解し、職員が入りながら関りを持てるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後も必要があればご本人・ご家族の相談に応じる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話からご本人の希望・想いを見つけられるよう努め、会話で気になったことは記録に残し、職員で共有している。	寄り添い、一緒に作業をすることで、何気ない時間の合間に、おしゃべりする内容や表情から汲み取っている。会話が成り立たない方には、機微な表情やしぐさを読み取って汲み取れる様にし、職員間で理解を深めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入院先の病院や通われていた同業者からも情報収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人個人の生活リズムを大切に、心身状態を職員が理解し変化があれば情報を記録に残し、色分けしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者との会話で要望を聞き、ご家族には面会時・電話などで聞き取り介護計画に反映している。	入居時のプランを2週間後、半年後に見直している。状態の変化や入退院時に適宜評価し、プランに反映している。更新時は、家族との電話やオンラインで聞き取った内容をアセスメントに書き足してケアプランに反映させている。毎月行ったモニタリングの内容は職員で共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子・変化・出来事などの記録に残し見直しても分かり易いように色分けし、申し送りや情報共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族の状況に応じ、病院などの送迎・リハパン・トロミなどの買い物も職員が行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に町内会長・民生委員に参加して頂き、地域交流に協力して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の希望に応じ、必要な時には医院の紹介も行っている。	家族が利便性を加味して、入居時に提携医へ転院される方もいれば、かかりつけ医を継続する方もいる。協力医とは何でも言える関係が形成され、看護師を窓口として支援している。月2回の協力医の訪問もあり、24時間時間体制となっている。また、訪問歯科は毎週来られる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化を見落とさず、職員・ナースと情報共有し往診時に報告している。急変時には、休日・夜間でも連絡し指示を貰いながら対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ご本人の状況に合わせ、お見舞いを行い医師・ご家族から方法収集し、退院前に病院関係・ご家族とカンファレンスを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設でできる事・出来ないことについて説明を行い重度化・終末期について話し合いを行っている。看取りについての要望も聞き取り、必要に応じて変更し情報・要望は職員・看護師と共有している。	積極的に看取りを受け入れている。今年度も一人を看取ったが、近所に住む家族と遠方の親族、医療チームと連携して、静かに表情良く逝かれた。年間計画の中に看取りの勉強会を組み込み、看取りが本格化してくると、各フロアのスタッフが行き来してケアを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変・事故発生時の対応は、職員会議などで話し合っているが定期的には出来ていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	当施設だけではなくグループ全体の訓練を計画している。	年2回に火災訓練を夜間想定で実施している。また、隔月に開催される防災委員会では、インターネットから得た情報を全体で周知することで、防災意識を高められるようにしている。備蓄は2階に3日分用意している。	旭川や用水路が間近にあるため、水害訓練を行っては如何でしょうか？また、消防署の参加も望みたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	訪室時にノック・声掛けを行い、トイレ誘導時言葉に気を付け誘導を行っている。	基本的に呼称は苗字に「さん」付けだが、同姓同名の方は下の名前で呼ぶこともある。入浴やトイレでは、利用者の近くで言葉をかけたり、排泄失敗時には、「大丈夫よ」とこっそりと平静を装ってサラっとお連れしたりしている。また、入室時には必ずノックするように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中から要望や希望を理解し、更衣時の衣服、パジャマなどは自己決定出来るように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人個人の生活ペースに合わせた生活を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服・パジャマを自分で選んで貰い外出時のお化粧品・ヘアセットも行っている。希望があれば訪問散髪も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日会には食べたい物の希望を聞いたり、月行事の食事やおやつなど無理のない範囲で手伝って頂いたり(片付けなど)、役割も楽しんで貰っている。	リビングに全員で集って餃子づくりをしていた。ホットプレートで餃子を焼く香りが漂い、笑い声を以って、団欒を賑やかしていた。また、稲荷ずしの揚げの中に酢飯を詰めている姿も拝見し、一人一人の楽しみが増している光景が目映った。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事量などを記録に残し、栄養士とも話し合っってバランスの良い食事を提供している。ご利用者の状態に合わせ食事形態も変更している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けで口腔ケアを行い、出来ていないところは職員が支援し希望があれば、訪問歯科を利用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人のトイレサインを理解し、トイレへの声掛けを行う。	個々の排泄パターンをチェック表に記録して、利用者のしぐさや対応や感情からの汲み取りも参考にして、日中は各居室のトイレに自ら行ってもらう。状態が悪化した時は、仕方なくリハビリパンツになっていたが、よく観察した事で改善の兆候が表れて、布パンツに戻った方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便が出やすいものを提供、水分も細目に提供。主治医へ連絡し、下剤などの調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の希望・体調に合わせて対応。入浴剤などで楽しんで頂き、時間の変更なども応じている。	入浴は週2回だが、その日の気分や体調に併せて手浴や足浴や清拭をして、出来る限り柔軟に対応している。希望すれば毎日でも入浴も可能。嫌がる方には、遠回りして会話をし、他の景色を見ながら気分を好転出来るようにお連れしている。冬至のゆず湯も楽しみになっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お昼寝をされる方もいらっしゃいますが、夜に安眠出来るようお昼寝の時間を調整を行い支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋ファイルを利用し薬の変更があれば記録に残して申し送りして譲歩共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の出来る事を見つけ、役割を持って貰うことで張り合いを感じて貰えるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	密を避けるため買い物の要望がある際はリストをピックアップしてもらい職員が代行している	天候や体調に合わせて、週2回スタッフと利用者などで一人ずつ散歩をしている。テラスに鳥居や賽銭箱・おみくじを作り、初詣が楽しめるようにして、殆どの利用者が手を合わせていた。今後は、外出の一つとして、月詣が出来ると考察している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族が了承のもとご本人が金銭管理をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族・ご友人・知人との電話での通話の支援を行っている。ご家族・知人への連絡も自由に出来ている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	月行事に季節に合わせた物を取り入れている。玄関の壁面でも季節を感じて頂けるよう努めている。	天然木がふんだんに使われた、和の風合い外装と内装。居室は、安心してその人らしい暮らしが出来るようになっている。飾り付け担当の職員が利用者と一緒に飾り付けを作ることで、季節を感じることができる。陽の光を屋内のふんだんな木材が吸収し、暖かでほのぼのとした雰囲気を出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自席やソファで過ごしたり、その時の気分で過ごせるスペースを作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた物を持参して頂き、安全を考慮して配慮している。	和モダンな風合いが色濃い内装で落ち着いた。畳の部屋もあり、個々に合わせた、心に寄り添える生活空間となっている。家族写真や自筆の書や馴染みの家具、小物などが利用者や家族に声を投げかけてくれる配慮がなされている。ベッドとトイレ、洗面台が備えつけられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険を配慮し、手の届く高さ・目線に合わせた物の配置にしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370105250
法人名	株式会社 ファミリス
事業所名	グループホーム パラディーン神宮寺
所在地	岡山県岡山市北区北方1-14-3
自己評価作成日	令和 3 年 1 月 28 日
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JiyosyoCd=3370105250-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	令和 3 年 2 月 24 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気でも過ごせるような環境にしている。
一人一人のペースで生活して頂いている。
コロナ禍において入居者様とご家族様の距離が遠くならないようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

各ユニット管理者の成長が窺われ、より地域の関わりをこのコロナ禍であっても何とか縁が増す様にと、思考を凝らしていた。その一つ目は、手作りの神社を作り、手を合わす事で心が豊かになる場を作っていた。また、二つ目としてフランス人のピザの移動販売車も寄る様になり、心温まる縁も築けた。和魂洋才の交流から、馴染みの環境が生まれた。利用者と家族のオンライン化を導入した事で家族との絆が深まり、職員の意向の把握に役立ち、家庭的な雰囲気が過ごせる工夫に至った。利用者も「ここで暮らす事で大切にされている」という気持ちから湧いて落ち着きを感じ、笑顔が満ち溢れていた。社長も何でも手伝うと言う気持ちから、日々言葉掛けや支援が、職員に充実感を与えていた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	業務内での疑問点・改善点が必要な時には申し送り時に話し合い、解決できない時には職員会議で話し合い、ケアの統一を図っている。	法人と事業所の理念は全員が覚えられる様に、2階事務所に掲示し、月1回の職員会議でも確認している。理念と照らし合わせた申し送りをすることで、日々の実践に活かせる様にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年ならば町内掃除・町内イベントに積極的に参加し、幼稚園へのイベントにも参加している。中学生の職場体験も毎年受け入れているが今年度については町内清掃に参加している程度	幼稚園児や地域の方が利用者と職員と繋がれる様に、ゴミ出しをしたり、居室やリビングの窓を開けて手を振ったりして、顔の見える関係が続くようにしている。毎月、フランス人がビザの移動販売車で来られ、舌鼓を打てる関りが加わった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご利用者と町内行事に参加したり、運営推進会議に町内会長・民生委員の方に参加して頂き、認知症の理解・支援の仕方を理解して頂ける機会を作っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	他グループホームの方にも参加してもらっている。	書面やメールで隔月で開催し、包括・町内会長・民生委員・家族・他事業所の方が参加している。コロナの最新情報や元気を伝え合う言葉を載せている。法人でタブレットを購入し、家族と利用者がオンラインで面会出来る様にと提案があった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市・県の研修に参加している。運営推進会議にも参加頂いており、意見交換や近況報告を行い、協力関係に繋げている。	窓口は、総務と管理者が内容により臨機応変に対応している。運営推進会議の書面を市町村に送付する中で、コロナ予防の最新情報を、いち早く送ってもらい、情報の共有のキャッチボールが深まっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設立し、委員会を中心として勉強会を行い、拘束のないケアを行っている。	身体拘束はしていない。隔月に身体拘束廃止委員会を開催している。最近では、スピーチロックを主に取り組み、日々のケアで「これはスピーチロックになってるかな？」と自身を省みたり、他のスタッフの関わりを見て言葉を掛け合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議やグループ全体研修などで勉強している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	2年ほど前成年後見制度を利用する機会があり、勉強になった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・締結・解約。また改定時にご家族と面会し、十分に話し合いを行い理解・納得してもらえよう努力している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に参加して頂いたり、個別に意見・要望を聞いている。またご家族からの意見・要望は職員で共有している。	家族から、お手伝いをもっとさせて欲しいとの要望があったので、お盆拭きが自らの役割として意識付けとなった。また、他の利用者にも意欲が沸き、歩行訓練も自ら取り決めて、役割として日課にしている。洗濯物を干したり雑巾を作ったりしていて、意欲が波及している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別に面談を行ったり、会議などで話し合い、職員の提案などを受け入れている。	年1回、総務との個人面談を継続していて、処遇や勤務・運営などに関する話し合いをしている。また、管理者は日頃の会話や職員会議の中で意見や提案を聞き、職員のちょっとした変化を感じた時は、管理者から積極的に職員へ話しかけるよう心掛けている。	人的連携を目指す為にも、成果を繋げるためにも、問題意識を伝える試みや、聞き取る力を増す様にしては如何でしょうか？
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別に面談したり、総務に不安や不満を言いに行ける環境を作り、楽しく働けるよう努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部・外部研修の内容や感想を会議で発表を行っている。外部研修の声掛けなども行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームとの交流。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を何度か行い、ご家族・ご本人から今までの生活歴を聞き、今までの生活に近づけるよう努めている。接する時間も大切にし、安心して生活できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前面談でご本人・ご家族の意見や要望を聞き入れ、入居された次のご家族へホームでの様子を電話で報告している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談・話し合いでご本人・ご家族が求めているものを見極め要望に近づける支援を提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人ができることはして頂き、洗濯物干・たみ・トレ拭きなど、職員と行い共同生活を楽しんで頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の役割をなくす事なくご家族・職員が協力し、話し合いを行い関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	リモート面会を始め利用していただいたり手紙のやりとりをされている。	コロナ禍で、馴染みの人や場所との関係が薄くならないように、リモート面会を週2回、手紙のやりとりを月1回行うことで、身近な関係が継続できるようにしている。四季の彩が好きな方は、日課としてテラスの水やりをすることで、新たな馴染みの場を形成している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係を理解し、職員が入りながら関りを持てるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後も必要があればご本人・ご家族の相談に応じる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話からご本人の希望・想いを見つけられるよう努め、会話で気になったことは記録に残し、職員で共有している。	寄り添い、一緒に作業をすることで、何気ない時間の合間に、おしゃべりする内容や表情から汲み取っている。会話が成り立たない方には、機微な表情やしぐさを読み取って汲み取れる様にし、職員間で理解を深めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入院先の病院や通われていた同業者からも情報収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人個人の生活リズムを大切に、心身状態を職員が理解し変化があれば情報を記録に残し、色分けしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者との会話で要望を聞き、ご家族には面会時・電話などで聞き取り介護計画に反映している。	入居時のプランを2週間後、半年後に見直している。状態の変化や入退院時に適宜評価し、プランに反映している。更新時は、家族との電話やオンラインで聞き取った内容をアセスメントに書き足してケアプランに反映させている。毎月行ったモニタリングの内容は職員で共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子・変化・出来事などの記録に残し見直しても分かり易いように色分けし、申し送りや情報共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族の状況に応じ、病院などの送迎・リハパン・トロミなどの買い物も職員が行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に町内会長・民生委員に参加して頂き、地域交流に協力して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の希望に応じ、必要な時には医院の紹介も行っている。	家族が利便性を加味して、入居時に提携医へ転院される方もいれば、かかりつけ医を継続する方もいる。協力医とは何でも言える関係が形成され、看護師を窓口として支援している。月2回の協力医の訪問もあり、24時間時間体制となっている。また、訪問歯科は毎週来られる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化を見落とさず、職員・ナースと情報共有し往診時に報告している。急変時には、休日・夜間でも連絡し指示を貰いながら対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ご本人の状況に合わせ、お見舞いを行い医師・ご家族から方法収集し、退院前に病院関係・ご家族とカンファレンスを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設でできる事・出来ないことについて説明を行い重度化・終末期について話し合いを行っている。看取りについての要望も聞き取り、必要に応じて変更し情報・要望は職員・看護師と共有している。	積極的に看取りを受け入れている。今年度も一人を看取ったが、近所に住む家族と遠方の親族、医療チームと連携して、静かに表情良く逝かれた。年間計画の中に看取りの勉強会を組み込み、看取りが本格化してくると、各フロアのスタッフが行き来してケアを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変・事故発生時の対応は、職員会議などで話し合っているが定期的には出来ていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	当施設だけではなくグループ全体の訓練を計画している。	年2回に火災訓練を夜間想定で実施している。また、隔月に開催される防災委員会では、インターネットから得た情報を全体で周知することで、防災意識を高められるようにしている。備蓄は2階に3日分用意している。	旭川や用水路が間近にあるため、水害訓練を行っては如何でしょうか？また、消防署の参加も望みたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	訪室時にノック・声掛けを行い、トイレ誘導時言葉に気を付け誘導を行っている。	基本的に呼称は苗字に「さん」付けだが、同姓同名の方は下の名前で呼ぶこともある。入浴やトイレでは、利用者の近くで言葉をかけたり、排泄失敗時には、「大丈夫よ」とこっそりと平静を装ってサラっとお連れしたりしている。また、入室時には必ずノックするように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中から要望や希望を理解し、更衣時の衣服、パジャマなどは自己決定出来るように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人個人の生活ペースに合わせた生活を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服・パジャマを自分で選んで貰い外出時のお化粧品・ヘアセットも行っている。希望があれば訪問散髪も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日会には食べたい物の希望を聞いたり、月行事の食事やおやつなど無理のない範囲で手伝って頂いたり(片付けなど)、役割も楽しんで貰っている。	リビングに全員で集って餃子づくりをしていた。ホットプレートで餃子を焼く香りが漂い、笑い声を以って、団欒を賑やかしていた。また、稲荷ずしの揚げの中に酢飯を詰めている姿も拝見し、一人一人の楽しみが増している光景が目映った。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事量などを記録に残し、栄養士とも話し合っってバランスの良い食事を提供している。ご利用者の状態に合わせて食事形態も変更している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けで口腔ケアを行い、出来ていないところは職員が支援し希望があれば、訪問歯科を利用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人のトイレサインを理解し、トイレへの声掛けを行う。	個々の排泄パターンをチェック表に記録して、利用者のしぐさや対応や感情からの汲み取りも参考にして、日中は各居室のトイレに自ら行ってもらう。状態が悪化した時は、仕方なくリハビリパンツになっていたが、よく観察した事で改善の兆候が表れて、布パンツに戻った方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便が出やすいものを提供、水分も細目に提供。主治医へ連絡し、下剤などの調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の希望・体調に合わせて対応。入浴剤などで楽しんで頂き、時間の変更なども応じている。	入浴は週2回だが、その日の気分や体調に併せて手浴や足浴や清拭をして、出来る限り柔軟に対応している。希望すれば毎日でも入浴も可能。嫌がる方には、遠回りして会話をし、他の景色を見ながら気分を好転出来るようにお連れしている。冬至のゆず湯も楽しみになっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お昼寝をされる方もいらっしゃいますが、夜に安眠出来るようお昼寝の時間を調整を行い支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋ファイルを利用し薬の変更があれば記録に残して申し送りして譲歩共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の出来る事を見つけ、役割を持って貰うことで張り合いを感じて貰えるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	密を避けるため買い物の要望がある際はリストをピックアップしてもらい職員が代行している	天候や体調に合わせて、週2回スタッフと利用者で一人ずつ散歩をしている。テラスに鳥居や賽銭箱・おみくじを作り、初詣が楽しめるようにして、殆どの利用者が手を合わせていた。今後は、外出の一つとして、月詣が出来ると考察している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族が了承のもとご本人が金銭管理をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご家族・ご友人・知人との電話での通話の支援を行っている。ご家族・知人への連絡も自由に出来ている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	月行事に季節に合わせた物を取り入れている。玄関の壁面でも季節を感じて頂けるよう努めている。	天然木がふんだんに使われた、和の風合い外装と内装。居室は、安心してその人らしい暮らしが出来るようになっている。飾り付け担当の職員が利用者と一緒に飾り付けを作ることで、季節を感じることができる。陽の光を屋内のふんだんな木材が吸収し、暖かでほのぼのとした雰囲気を出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自席やソファで過ごしたり、その時の気分で過ごせるスペースを作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた物を持参して頂き、安全を考慮して配慮している。	和モダンな風合いが色濃い内装で落ち着いた。畳の部屋もあり、個々に合わせた、心に寄り添える生活空間となっている。家族写真や自筆の書や馴染みの家具、小物などが利用者や家族に声を投げかけてくれる配慮がなされている。ベッドとトイレ、洗面台が備えつけられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険を配慮し、手の届く高さ・目線に合わせた物の配置にしている。		